

Asia Indicators

発表日: 2021年4月30日(金)

豪州、インフレ率は引き続き目標を下回る推移(Asia Weekly(4/23~4/30))

~ニュージーランドでは国内外の景気回復を反映して輸出入双方で底入れが続く~

第一生命経済研究所 経済調査部

主席エコノミスト 西濱 徹(Tel: 03-5221-4522)

○経済指標の振り返り

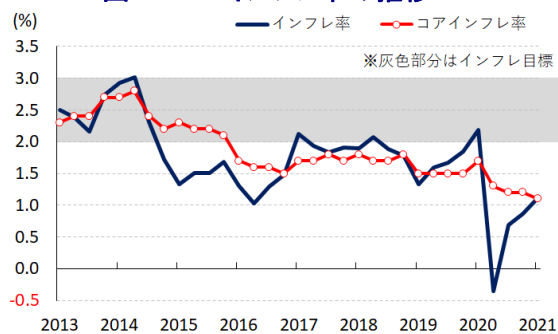
発表日	指標、イベントなど	結果	コンセンサス	前回
4/23(金)	(台湾)3月鉱工業生産(前年比)	+16.78%	--	+2.52%
	(香港)3月消費者物価(前年比)	+0.5%	--	+0.3%
4/26(月)	(シンガポール)3月鉱工業生産(前年比)	+7.6%	+3.0%	+16.5%
4/27(火)	(韓国)1-3月実質GDP(前年比・速報値)	+1.8%	+1.1%	▲1.2%
	(香港)3月輸出(前年比)	+26.4%	--	+30.4%
	3月輸入(前年比)	+21.7%	--	+17.6%
4/28(水)	(豪州)1-3月消費者物価(前年比)	+1.1%	+1.4%	+0.9%
	(マレーシア)3月輸出(前年比)	+31.0%	+22.9%	+17.6%
	3月輸入(前年比)	+19.2%	+18.0%	+12.7%
4/29(木)	(ニュージーランド)3月輸出(億NZドル)	56.8	--	45.0
	3月輸入(億NZドル)	56.5	--	43.0
4/30(金)	(韓国)3月鉱工業生産(前年比)	+4.7%	+4.2%	+0.9%
	(中国)4月製造業PMI	51.1	51.7	51.9

(注) コンセンサスは Bloomberg 及び THOMSON REUTERS 調査。灰色で囲んでいる指標は本レポートで解説を行っています。

【豪州】~生活必需品に物価上昇の動きも、インフレ率・コアインフレ率ともにインフレ目標を下回る推移が続く~

28日に発表された1-3月の消費者物価は前年同期比+1.1%となり、前期(同+0.9%)から伸びが加速したものの、依然として中銀(豪州準備銀行)が定めるインフレ目標(2~3%)を下回る推移が続いている。前期比は+0.51%と前期(同+0.86%)から上昇ペースが鈍化しているものの、国際原油価格の底入れの動きなどを反映してエネルギー価格は上昇傾向を強めているほか、生鮮品を中心とする食料品価格も上昇の動きを強めるなど、生活必需品については物価上昇圧力が強まる動きがみられる。なお、同国ではトリム平均値(刈り込み平均値)ベースのインフレ率をコアインフレ率とするなか、1-3月は前年同期比+1.1%となり、前期(同+1.2%)からわずかに伸びが鈍化しており、インフレ率とともにインフレ目標を下回る推移が続いている。前期比も+0.35%と前期(同+0.44%)からじょうしよペースが鈍化しており、エネルギー価格の上昇に伴い上振れしている輸送コストの転嫁の動きを反映して幅広く財価格に押し上げ圧力が掛かる動きはみられる一方、雇用環境の改善にも拘らずサービス物価の上昇圧力は後退する展開が続いており、足下の雇用回復の動きは道半ばの状況にある上、賃金上昇圧力が高まりにくいことも物価動向に影響を与えているとみられる。

図1 AU インフレ率の推移

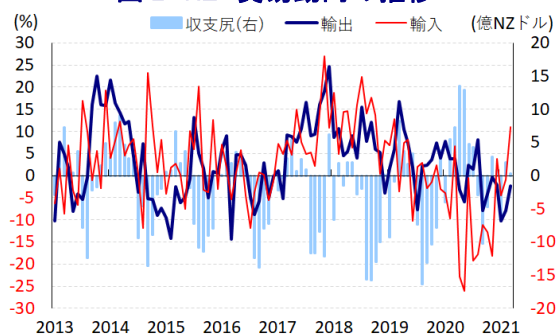


(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

[ニュージーランド]～世界経済の回復に加え、経済活動の正常化を反映して輸出入双方で底入れが進む～

29日に発表された3月の輸出額は前年同月比▲2.3%と7ヶ月連続で前年を下回る伸びとなったものの、前月(同▲7.9%)からマイナス幅は縮小した。ただし、前月比は+5.4%と前月(同+1.7%)から2ヶ月連続で拡大しており、中期的な基調も拡大傾向に転じるなど底入れしている。財別では、主力の輸出財である乳製品や食肉、木製品のほか、国際原油価格の底入れの動きを反映して原油の輸出額も押し上げられるなど幅広く拡大しており、価格上昇の動きに加えて世界経済の回復による需要の底入れの動きも輸出を押し上げている。国・地域別でも、最大の輸出相手である中国向けのほか、隣国豪州向けも拡大している上、日本や米国、欧州などの先進国向けやASEANなどアジア新興国向けも堅調に推移するなど全般的に拡大している。一方の輸入額は前年同月比+11.0%となり、前月(同▲0.9%)から3ヶ月ぶりに前年を上回る伸びに転じた。前月比も+14.0%と前月(同▲6.7%)から2ヶ月ぶりの拡大に転じている上、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど底入れの動きを強めている。国際原油価格の底入れの動きを反映して原油関連の輸入額に大幅に押し上げ圧力が掛かっているほか、機械製品関連や電気機械関連など幅広い分野で輸入額が拡大しており、新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)の感染収束により経済活動の正常化が進んでいることを反映して輸入が押し上げられている。結果、貿易収支は+0.33億NZドルと前月(+2.01億NZドル)から黒字幅が縮小している

図2 NZ 貿易動向の推移



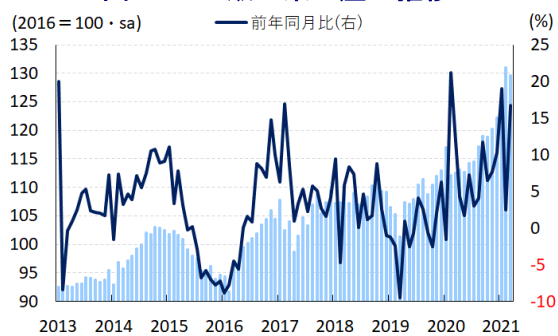
(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

[台湾]～世界経済の回復による主力の輸出財に対する需要の堅調さを反映して、生産は堅調な推移が続く～

23日に発表された3月の鉱工業生産は前年同月比+16.78%となり、前月(同+2.52%)から伸びが加速した。ただし、前月比は▲1.05%と前月(同+3.94%)から5ヶ月ぶりの減少に転じているものの、

中期的な基調は拡大傾向で推移するなど底堅い動きが続いている。国際商品価格の底堅さを反映して鉱業部門の生産は底堅く推移しているほか、製造業関連の生産も堅調さを維持するなど、全般的に生産は活発な展開が続いている。なかでも主力の輸出財である半導体や液晶をはじめとする電子部品関連のほか、世界的な医薬品需要の高さを反映して化学製品関連の生産も拡大傾向を強めており、世界経済の回復の動きが生産を押し上げている様子が見える。

図3 TW 鉱工業生産の推移

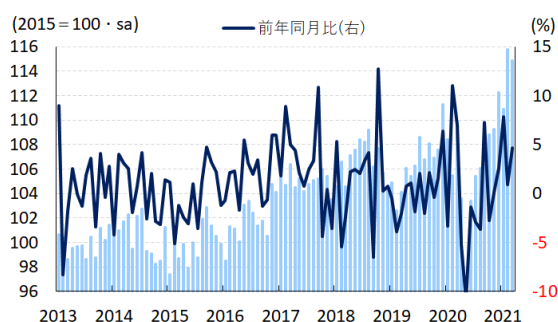


(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

[韓国]～輸出財関連を中心に生産拡大が続く一方、分野ごとに生産動向に跛行色が強まっている模様～

30日に発表された3月の鉱工業生産は前年同月比+4.7%となり、前月(同+0.9%)から伸びが加速した。前月比は▲0.78%と前月(同+4.42%)から2ヶ月ぶりの減少に転じているものの、中期的な基調は拡大傾向で推移するなど底入れの動きが続いている。製造業や鉱業部門で生産拡大の動きに一服感が出ている一方、公益部門やサービス部門、建設部門などでの生産拡大の動きが全体を下支えしている様子が見える。なお、製造業のなかでは主力の輸出財である半導体をはじめとする電子部品関連のほか、電気機械関連などで生産拡大の動きがみられる一方、自動車をはじめとする輸送用機械関連で生産に下押し圧力が掛かっており、こうした状況を反映して金属関連など重工業部門の生産も鈍化するなど跛行色が広がっている。平均設備稼働率も75.0%と前月(77.4%)から▲2.4pt低下しており、底入れの動きが強まった流れに一服感が出ている。

図4 KR 鉱工業生産の推移

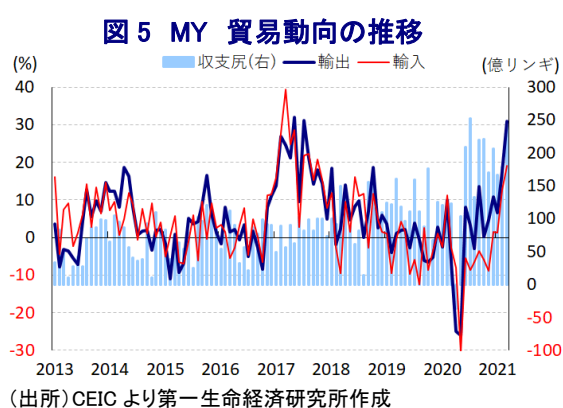


(出所)CEIC より第一生命経済研究所作成

[マレーシア]～世界経済の回復を反映して輸出の底入れが進み、そうした動きは輸入を押し上げる好循環～

28日に発表された3月の輸出額は前年同月比+31.0%となり、前月(同+17.6%)から伸びが加速した。季節調整値に基づく前月比も3月は+3.2%と前月(同+14.1%)から2ヶ月連続で拡大しており、

中期的な基調も拡大傾向に推移するなど、世界経済の回復を反映して底入れの動きを強めている様子が見えてくる。主力の輸出財である電子部品関連を中心に電気機械関連の輸出は堅調な動きをみせているほか、国際商品市況の底入れの動きを反映して鉱物資源関連の輸出額が押し上げられるなど、幅広い分野で輸出に底入れの動きが続いている。一方の輸入額は前年同月比+19.2%となり、前月（同+12.7%）から伸びが加速した。前月比も+3.9%と前月（同+9.5%）から2ヶ月連続で拡大しており、中期的な基調も拡大傾向で推移するなど輸出と同様に底入れの動きを強めている。輸出の堅調さを反映して輸出財の生産に必要な資本財や中間財を中心に輸入に押し上げ圧力が掛かる動きがみられるほか、新型コロナウイルスの感染拡大を受けた非常事態宣言の発令にも拘らず、家計消費など内需の底堅さを反映して消費財関連の輸入も堅調な推移をみせている。結果、貿易収支は+241.52億リングと前月（+178.77億リング）から黒字幅が拡大している。



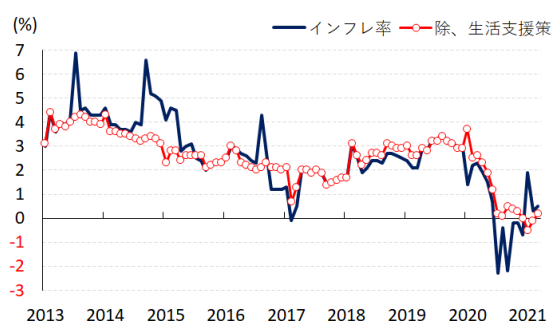
【香港】～物価を巡る動きはまちまちの一方、世界経済の回復を受けて輸出入はともに底堅い展開が続く～

23日に発表された3月の消費者物価は前年同月比+0.5%となり、前月（同+0.3%）から伸びが加速した。ただし、前月比は+0.00%と前月（同+0.18%）から上昇ペースは鈍化しており、国際原油価格の堅調な推移を反映してエネルギー価格に上昇圧力が掛かる展開が続く一方、生鮮品を中心とする食料品価格は3ヶ月ぶりに下落に転じており、生活必需品を巡る物価の動きはまちまちの状況にある。なお、香港では2007年以降断続的に公営住宅を対象とする賃料減免措置をはじめとする生活支援策が実施されており、その影響を除いたベースでは前年同月比+0.2%と前月（同▲0.1%）から3ヶ月ぶりのプラスとなるなど、緩やかにインフレ圧力が強まる動きがみられる。前月比は+0.09%と前月（同+0.09%）から同じペースで上昇しており、エネルギー価格の上昇を反映して輸送コストに押し上げ圧力が掛かるなかで一部の消費財価格に転嫁される動きがみられる一方、景気回復が道半ばの状況にあることを受けてサービス物価に下押し圧力が掛かるなど、依然として物価を巡る動きはまちまちの状況が続いている。

27日に発表された3月の輸出額は前年同月比+26.4%となり、先月（同+30.4%）から伸びが鈍化した。当研究所が試算した季節調整値に基づく前月比は5ヶ月ぶりの減少に転じるなど、底入れの動きが進んだ流れに一服感が出ているものの、中期的な基調は拡大傾向を維持するなど底堅く推移している。国・地域別では、最大の輸出相手である中国本土向けのほか、米国やEU、日本など先進国向け、ASEANなどアジア新興国向けなど幅広い地域向けで底堅い動きが続いており、世界経済の回復の動きが下支えする展開が続いている。一方の輸入額は前年同月比+21.7%となり、前月（同+17.6%）から伸

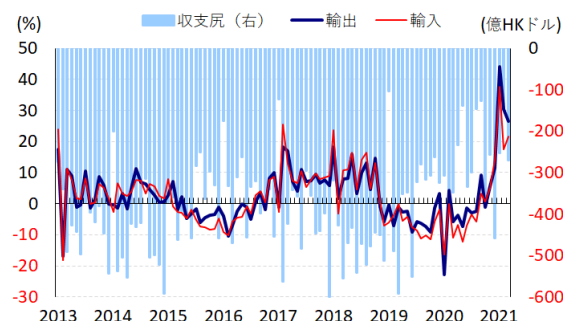
びが加速した。前月比は7ヶ月ぶりの減少に転じるなど底入れの動きが続いた流れに一服感が出ているものの、中期的な基調は拡大傾向を維持するなど輸出同様に底堅い推移が続いている。輸出同様に中国本土からの輸入のみならず、先進国、新興国問わず幅広い地域からの輸入に底堅い動きが続いており、中国本土景気の堅調さや世界経済の回復を反映した動きがうかがえる。結果、貿易収支は▲269.67億HKドルと前月（▲146.99億HKドル）から赤字幅が拡大している。

図6 HK インフレ率の推移



(出所)CEICより第一生命経済研究所作成

図7 HK 貿易動向の推移

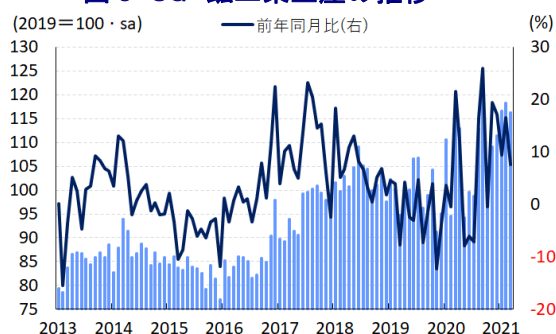


(出所)CEICより第一生命経済研究所作成

[シンガポール]~バイオ・医薬品関連のほか、半導体をはじめとする電子部品関連を中心に生産は底堅く推移～

26日に発表された3月の鉱工業生産は前年同月比+7.6%となり、前月（同+16.5%）から伸びが鈍化した。前月比も▲1.72%と前月（同+1.50%）から5ヶ月ぶりの減少に転じているものの、中期的な基調は拡大傾向で推移するなど底堅さが続いている。なお、同国では月ごとにバイオ・医薬品関連産業の生産が大きく上下に振れる上、鉱工業生産全体の動向を左右する傾向があるなか、当月は世界的な新型コロナウイルス対応を巡る医薬品需要の高まりを反映して前月比+90.49%と前月（同▲22.67%）から2ヶ月ぶりの大幅な拡大に転じる動きがみられた。よって、バイオ・医薬品を除いたベースでは前月比▲3.15%と前月（同+0.24%）から2ヶ月ぶりの減少に転じているものの、中期的な基調は拡大傾向で推移するなど底堅い動きが続いている。化学製品関連や一般機械をはじめとする機械製品関連分野で生産底入れの動きに一服感が出ている一方、世界的に需要拡大の動きが続く半導体をはじめとする電子部品関連や精密機械関連、化学製品関連を中心に生産は堅調な推移が続いている。

図8 SG 鉱工業生産の推移



(出所)CEICより第一生命経済研究所作成

以上

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。